特殊罷業

本年度に於ける特殊なる性質を有する罷業は、北九州に於ける炭坑罷業であつて、參加者は組合外であつた爲一種の蜂起的罷業とも稱し得べく、これに對する日本炭坑夫組合は九州聯合會の應援の下に、極力指導に當り、全協、全國大衆黨の系介在の餘地なからしめた。何れも、相當有利に解決し、組合の組織を廣く展開することを得た。

又東京に於ける永田メリヤス機械製作所の罷業の如く、純然たる組合壓迫に基くものもあり、これ以外にも、同樣の性質を有するものがある。特に注目すべきは、以上の罷業中日本工業倶樂部の、組合逆宣傳に依つて發生したるもの乃至解決を遲延せしめられたりと認められるものの、相當存在することである。

工場閉鎖

本年度に於ける工場閉鎖は四十四件、關係人員一千五百五十人であつて、前年度の十四件、六百十一人に比し、件數に於て三十件、人員に於て九百三十九人を增した。工場閉鎖の原因は、主として不況による工場倒壞であつて、如何に深刻化しつゝあるかを語るものである。

關係人員の一件平均は三十五・二人でこれ亦、中小工場なるを示す。これに依つて失業したる組合員は一千二百三十五人、其他繰短一部縮少に依る被解雇組合員は數千名に達する。

交渉に依る解決

罷業に至らず、交渉に依つて解決したるもの別表の如く八百十六件の多數に上つた。最も多數を占めたるは、關西紡織產業勞働組合の三百八十四件であるが、これは、紡績の勞資關係の現狀からして、絕へず「紛議」的性質のものゝ發生した結果で、他組合のそれとは多少性質を異にする。然し乍ら何れにしても、罷業手段の伴はざる交渉解決の增加したることは、勞資關係の合理化が、少くとも、我同盟加盟組合對雇主との間に着々進行しつゝある證査として注目すべきところである。

罷業財政

罷業基金の日常積立は、我同盟の常に各組合に勸告し來つたところであるが、着々徹底し、各支部、組合、聯合會、同盟會等に、相當積立てられ、現在、罷業毎に寄附金等の募集は殆んど必要なく、現在程度の罷業に於ては、如何に繼續日數が長くとも、罷業財政は餘り困難を感じない狀態となつた。

特設の罷業金庫を有するは、關東勞働同盟會で、積立金二萬三百餘圓（八月末現在）に達した。左に、最近二三年間に於ける大小主なる罷業の總費用を示す。

費用より見たる爭議

但繼續一ヶ月以上の分

會社名	繼續日數	參加人員	爭議費用 總額	爭議費用 人當一日
			圓	圓
千葉 野田醬油	2-3年 218	1200	295.783.32	1.13
東京 東京金網	3年 50	113	2.010.20	.35
東京 三越	4年 40	108	1.692.86	.39
大阪 鐘ケ淵紡績	5年 54	750	29.865.99	.73
大阪 東洋製鋼	5年 110	65	4.324.51	.60
東京 前田鐵工所	5年 119	57	3.409.15	.50
東京 ローヤル、セルロイド	6年 37	73	1.339.59	.49
東京 永田メリヤス	6年 81	40	2.900.04	.89
平均	88	300		.63